

Minimum Standards for Respiratory Physical Therapy in Chronic Respiratory Diseases

慢性呼吸器疾患における呼吸理学療法の ミニマムスタンダード

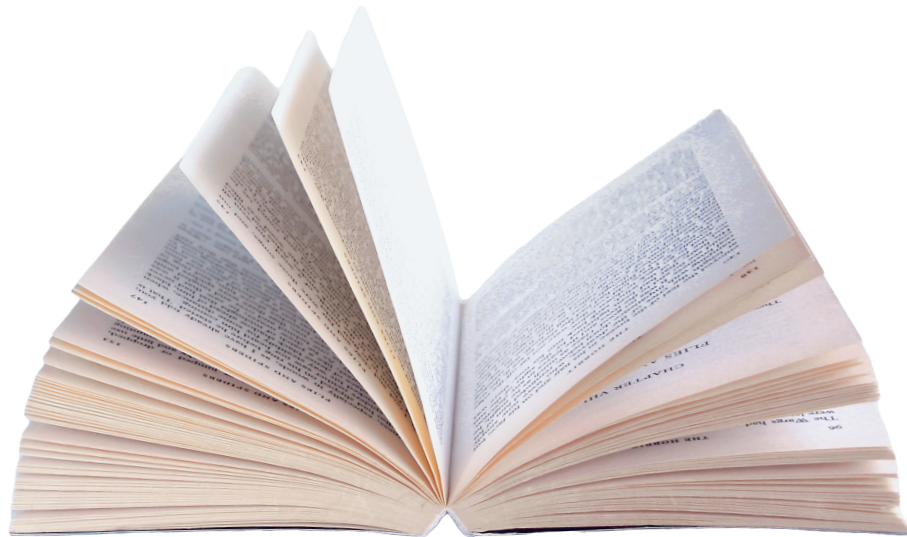
一般社団法人日本呼吸理学療法学会
標準化委員会

ミニマムスタンダードとは、

臨床診療の合意に基づく最低限の臨床診断基準です^{#1}。

ミニマムスタンダードは教育・臨床の場面で共通言語となる指標や評価スケールを学ぶ機会を創出し、臨床においては共通したアウトカムの確立にも寄与します。

#1 … 日集中医誌 2021;28:237-54



慢性呼吸器疾患における呼吸理学療法の

ミニマムスタンダードの作成

● 研究期間

2023年6月20日～8月18日

● 研究対象

JSRPT専門会員Aにて認定・専門理学療法士の資格を持ち、理事・評議員を中心とした当学会会員のうち、研究同意を得られた44名

● 研究方法

Delphi法^{#2}にて実施

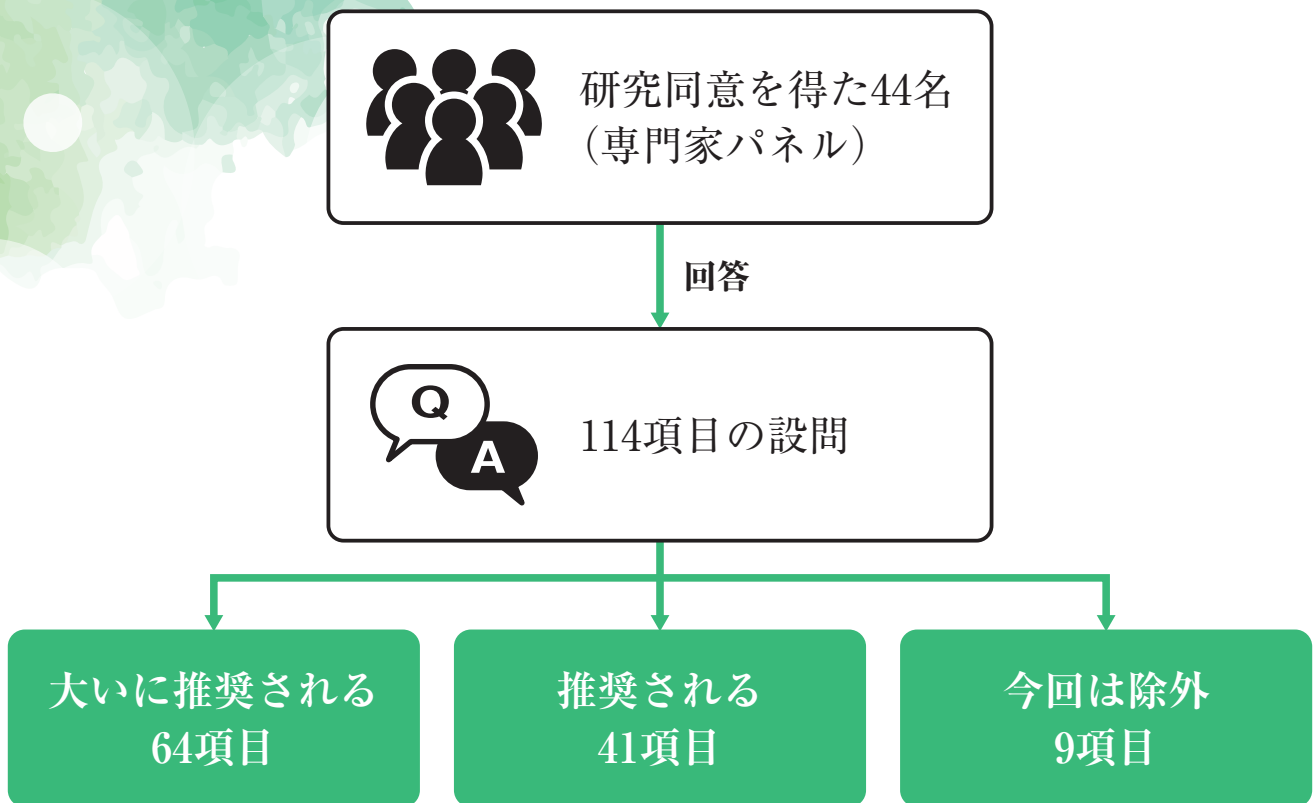
Google formsを用いたe-Delphi法

● 設問項目

Delphi法に基づき作成した調査票を使用

調査票では、慢性呼吸器疾患における呼吸理学療法に関する知識・理解・解釈・評価・プログラム等に関する114項目を立案しています。

#2 … Int J Clin Pharm 2016;38:655-62.



全114項目を5段階のリッカート尺度にて評価、
大いに推奨する(5) + 推奨する(4)の項目を70%以上獲得した項目を
ミニмумスタンダードに選定しています。

また、ミニмумスタンダードに選定された項目は獲得した平均値を
用いて重みづけを見ます。

01

慢性呼吸器疾患における以下の知識を有している

大いに推奨される	
呼吸理学療法のガイドライン	4.87
在宅酸素療法	4.76
慢性呼吸器疾患のガイドライン	4.74
急性増悪	4.69
セルフマネジメント	4.61
多職種介入・RST	4.53
禁煙	4.43
在宅人工呼吸療法	4.43

推奨される	
薬物療法：気管支拡張剤	4.25
社会福祉資源	4.17
アドバンスケアプランニング	4.15
薬物療法：ステロイド	4
介護保険	3.92
薬物療法：吸入薬デバイス	3.87
薬物療法：抗菌薬	3.87

(数値は各項目が獲得したリッカート尺度の平均値)

02-1

各種医学機器への理解および解釈ができる

大いに推奨される

酸素療法：低流量システム	4.82
在宅酸素療法	4.76
酸素ボンベ	4.76
酸素療法：高流量システム	4.69
吸引器	4.51
高流量鼻カヌラ酸素療法(HFNC)	4.48

推奨される

在宅酸素療法(液体酸素)	4.4
気管切開・気管カニューレ	4.25
カフアシスト	4.2
胸腔ドレーン	4.07

(数値は各項目が獲得したリッカート尺度の平均値)

02-2

人工呼吸療法に関する理解と解釈ができる

大いに推奨される

非侵襲的換気療法(NIV)	4.67
挿管下人工呼吸(IPPV)	4.48
CPAP	4.46
プレッシャーサポート	4.46
人工呼吸器離脱プロトコル・SBT	4.43

推奨される

PEEP	4.43
従圧式換気モード(PCV)	4.38
従量式換気モード(VCV)	4.3
SIMV	4.25
二相式気道陽圧呼吸療法(ASV)	3.94

(数値は各項目が獲得したリッカート尺度の平均値)

03

各種医学検査に関する理解と解釈ができる

大いに推奨される

経皮的酸素飽和度(SpO ₂)	4.94
肺機能検査(spirometry)	4.94
胸部単純X線	4.89
血液ガス	4.87
胸部CT	4.79
栄養状態(BMI, %IBW, %LBW等)	4.76
血算・生化学	4.69
肺機能検査(DLCO)	4.58

推奨される

心電図	4.38
呼気終末二酸化炭素分圧(PetCO ₂)	4.05
心エコー	3.97
胸部MRI	3.94

(数値は各項目が獲得したリッカート尺度の平均値)

04

評価項目の実施・解釈

①フィジカルアセスメント	<u>フィジカルアセスメント(4.92)</u> , <u>呼吸回数(4.84)</u> , <u>呼吸パターン(4.76)</u> <u>JCS(4.48)</u> , <u>GCS(4.35)</u> , <u>RASS(4.33)</u>
②呼吸困難感	<u>Borg Scale(4.92)</u> , <u>mMRC(4.84)</u> , <u>VAS(4.25)</u> <u>target dyspnea rating(4.1)</u>
③呼吸筋力	<u>最大吸気圧・最大呼気圧, CPF(4.56)</u>
④四肢筋力	<u>握力(4.82)</u> , <u>MRC sum score(4.43)</u> , <u>MMT(4.35)</u> <u>SMI(4.12)</u>
⑤身体機能	<u>SPPB(4.41)</u> , <u>日本版フレイル基準J-CHS(4.43)</u>
⑥運動耐容能	<u>6MWT(4.94)</u>
⑦身体活動性	<u>歩数計(4.61)</u> , <u>身体活動量計(4.48)</u> ,
⑧日常生活活動	<u>SpO₂モニタリング(4.74)</u> , <u>NRADL(4.38)</u> <u>Barthel index dyspnea(4.28)</u> , <u>FIM(3.97)</u> , <u>Barthel index(3.89)</u>
⑨QOL	<u>CAT(4.71)</u> , <u>SGRQ(4.41)</u> , <u>CRQ(3.92)</u> , <u>SF-36(4.02)</u>
⑩社会心理的	<u>HADS(4.37)</u>
⑫嚥下機能	<u>反復唾液嚥下テストRSST(4.05)</u> , <u>改定水飲みテストMWST(3.92)</u>

- JCS: Japan coma scale ● GCS: Glasgow coma scale ● RASS: Richmond Agitation-Sedation Scale
- mMRC: Modified Medical Research Council Dyspnea Scale ● VAS: visual analog scale
- CPF: Cough peak flow ● SMI: Skeletal muscle mass index ● SPPB: Short physical performance battery
- 6MWT: 6-minutes walk test ● NRADL: The Nagasaki university respiratory ADL questionnaire
- CAT: COPD assessment test ● SGRQ: St. George's Respiratory Questionnaire
- CRQ: Chronic respiratory disease questionnaire ● SF-36: MOS Short-Form 36-Item Health. Survey
- HADS: Hospital Anxiety and Depression Scale

下線の項目が「大いに推奨される項目」、下線無しの項目は「推奨される項目」
(数値は各項目が獲得したリッカート尺度の平均値)

さいごに

ミニマムスタンダードとして推奨される知識・理解・技術のコンセンサスを提示しましたが、今後卒前・卒後教育での活用や職場内における統一したスケールとしての指針として臨床・教育・研究の場面で利用して頂ければ幸いです。

今後も日本呼吸理学療法学会は様々な研究支援・情報提供などを通じて本邦での呼吸理学療法の発展推進を進めてまいります。

一般社団法人日本呼吸理学療法学会 標準化委員会

- 瀬崎 学(済生会新潟県央基幹病院)
- 岩崎 円(新潟大学医歯学総合病院)
- 木賀 洋(新潟県立中央病院)
- 佐々木康介(神戸市立医療センター中央市民病院)
- 田平 一行(畿央大学)
- 関川 清一(広島大学)
- 沖 侑大郎(神戸大学)
- 玉木 彰(兵庫医科大学)

※この研究は、一般社団法人日本理学療法学会連合「2023年度理学療法にかかわる研究助成」を得ておこないました。

※当会の許可なく無断転載、AIへの活用を禁じます。